



総医療費
580,000千円
1人当り 66,500円
1件当り 11,400円




被保険者数
8,724人(2,603世帯)
全人口の61%



件数
51,100件
1人当り 5.9件
1日当り 140件



保険税
164,000千円
1人当り 18,800円
1世帯当り 63,000円



保険給付費
449,000千円
1人当り 51,500円
1件当り 8,800円



五十五年度決算から

この早期発見に役立つのが健康診断です。中年すぎたら、一年に一度はガン検診や、成人病の検査を受けましょう。

また、短期で少負担の「短期人間ドック」(本紙六月号掲載)の制度もご紹介しますので、ご利用をおすすめいたします。

では、総医療費の三割強を占めています。

お年寄りのみなさんが、健康管理に関心を持たれるのは当然のことです。一般成人者と比べて受診回数が多いのも、いたしかたのないことですが、財政的見地からすれば、これもまた、医療費増高の一因であることは否めません。

一位を占める循環系疾患

最後に、どのような疾病が多い

のかを、昨年の統計からみてみると、一番多いのが循環系の疾患、次が呼吸系で、三位が神経および感覚器の疾患となっています。また金額の多いものでは、精神障害がトップです。

厳しい国保の今後

以上、国保の現状をみてまいりましたが、相互扶助の精神を基本とした、この医療保険制度は、今やすっかり社会に定着し、私たちのくらしに欠かせぬ重要なものになっていることがわかります。

一方、運営面からみまると、かなり厳しい時代を迎えていると言わざるをえません。

一般の勤労者を対象に、会社等が行う健康保険など、年齢構成の若い他の制度に比べて、対象者が圧倒的に多い老人医療の問題など、制度間の負担のあり方をめぐって

被保険者五ツの心得。

お医者さんへ信じましょう

一度お医者さんを決めたからには、その人を信用し、すべてをまかせることが大切です。

むやみにお医者さんを変えることが、必ずしも良い結果を生むものではなく、同じような診療、投薬を受けることにもなり、医療費がそれだけ高くなります。

家庭医をもちましよう

家庭医というものは、身近かにあって、一家の健康のことを何でも相談できるお医者さんのことです。

ふだんから、家族のからだの状況をよく知っているため、一家の健康管理を充分してくれまので、きわめて大切な存在です。

診療時間内に診てもらおう

病気は、いつ起こるかわからないものなので、緊急の場合はやむをえませんが、自分の都合で診療時間外に診てもらおうのは、できない

くすりの乱用 危険です

くすりが多いからといって、決して早く治るといふものではないです。あちこちのお医者さんを歩き、同じ種類のくすりを一度に服用することは、かえって危険です。

心がけよう

早期発見・治療

死亡原因の上位を占める高血圧症、動脈硬化症、心臓病、糖尿病、ガンなどのいわゆる成人病は、自覚症状のないままに、潜在的に進行することが多くあります。したがって、自覚症状が現われた時には、すでに手遅れになっていることが少なくありません。早期発見、早期治療が理想的です。

だけよみましょう。